

2020/9/20

安倍政権の終焉と菅後継政権の発足にあたって

金子兜太「アベ政治を許さない」の精神を継承・堅持し、前進！

本会常任世話人代表 望田幸男

安倍政権を後継する菅新政権

本会は、明治期以降で最長期＝8年間にわたった安倍政権に対して、その反非核平和の姿勢に一貫して対峙してきた。その後継の菅政権は、安倍政権の政策を基本的に継承すると広言している。まさに安倍後継政権である。

安倍政権下の体験は、総理大臣がどのような人物であるかによって、国政のあり方や国民の生活状態が大きく影響を受けることを、痛切な体験として感じ取ることができた。では新政権の菅首相が、安倍政権を支えてきた中心人物であり、その基本政策を継承すると公言しているかぎり、私たちが取るべき基本姿勢も自ずから明白となってくる。

菅新政権にどう対峙していくか

ここで私たちは、安倍政権下で運動の旗印として各家々に掲げていた俳人金子兜太氏の怒りの筆「アベ政治を許さない」の精神をもって、ふたたび決起しなければならない。その具体的課題は、まずは本会の本年度活動方針で提示した四つの課題の世論喚起である。

- (1) 核兵器廃絶
- (2) 北東アジア非核地帯条約の締結
- (3) 自然再生エネルギーの推進、
- (4) コロナウイルス対策とともに、「気候危機」脱却をめざした脱炭素化

菅新政権は、安倍前政権の一定の修正・補正、新たな施策も打ち出しつつある。しかし、それらが、「自由への新手の制約」とならないよう十分に警戒する必要がある。その意味では、関係諸団体とも提携しつつ、非核平和の論陣を広く展開していくことを、今こそ急がねばならない。